

SANKI  
COLUMN

## 自己株式取得に係る事項の決定及び 自己株式の消却について

当社は2017年5月12日開催の取締役会において、自己株式の取得に係る事項、及び自己株式の消却について決議し、このうち自己株式の消却を同年5月22日に完了いたしましたのでお知らせいたします。

### ▶取得に係る事項の内容

取得しうる株式の総数	3,000,000株（上限） （発行済株式総数（自己株式を除く）の4.72%）
株式の取得価額の総額	4,000百万円（上限）
取得期間	2017年5月15日～2018年3月31日

### ▶消却の内容

消却した株式の数	3,000,000株（消却前の発行済株式総数の4.50%）
消却実施日	2017年5月22日

※消却後の当社の発行済株式総数は63,661,156株となります。

### ? 自己株式の取得・消却とは?

#### 自己株式の取得

企業が自社の株式を取得することであり、自社株買いともいいます。市場に流通する株式が減少するため、1株あたりの価値が向上します。

#### 自己株式の消却

取得した自己株式を消却することで、発行済株式総数が減少するため、1株あたりの価値が向上します。

株主・投資家の皆さま向け  
ホームページのご案内  
<http://www.sanki.co.jp/ir/>



 三機工業株式会社

〒104-8506 東京都中央区明石町8の1 聖路加タワー  
TEL.03-6367-7041 FAX.03-3541-6676  
<http://www.sanki.co.jp/>



環境に配慮した  
「ベジタブルオイルインキ」を  
使用しています。



見やすいユニバーサル  
デザインフォントを  
採用しています。

# 株主通信

## 決算のご報告

[2017年3月期] 2016年4月1日～2017年3月31日



 三機工業株式会社

## Contents

To our shareholders 「ごあいさつ」	2
Top Interview トップインタビュー	3
SANKI Construction Case Studies 特集1：施工例	7
SANKI Construction Case Studies 特集2：施工例	8
SANKI Construction Case Studies 特集3：施工例	9
SANKI Technology Introduction 特集4：技術紹介	10
Consolidated Financial Data 連結財務データ	11
Corporate Data 会社データ	13
Stock Information 株式データ	14



三機工業グループ経営理念

## エンジニアリングをつうじて 快適環境を創造し 広く社会の発展に貢献する

技術と英知を磨き、顧客満足の向上に努める  
コミュニケーションを重視し、相互に尊重する  
社会の一員であることを意識し、行動する

## To our shareholders

### ごあいさつ

株主の皆さまにおかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

2017年3月期の建設投資は、公共投資に下げ止まりの動きが見られた一方で、民間設備投資は先行きの不透明感から横ばいに推移しました。そのなかで当社グループは、提案営業の積極的な推進により受注の拡大を図りつつ、原価管理の徹底と現場サポート体制の整備に努めました。

前期との比較では、売上高が減少したものの、繰越工事高は大きく積み上げており、利益面についても前期からの高水準を維持することができました。

当期は、10年後を見据えた長期ビジョンのファーストステップとなる3か年中期経営計画“**Century 2025**” Phase1を始動しました。「質を高める3年間」をテーマとする本計画は、3つの重点施策を柱とした取り組みを通じて、着実な成果を挙げつつあります。

当社グループは、長期ビジョンおよび中期経営計画の達成に向けて邁進し、同時にコーポレートガバナンスの充実を図っていくことで、企業価値を拡大しながら、より大きな社会的貢献を果たしてまいります。

2017年6月



代表取締役社長

長谷川 勉



そのなかで当社は、2025年の創立100周年を見据えた10年間の長期ビジョン“Century 2025”および3ヵ年中期経営計画“Century 2025” Phase1の初年度として、本計画の経営方針である「質を高める」ことを基軸に、コア事業の強化や生産性・業務効率の改善を図るとともに、大和地区再開発に着手し、未来に向けた技術の向上と事業領域の拡大を目指す取り組みを開始しました。

受注高については、建築設備事業が前期比3.8%減となり、機械システム事業も前期に大型搬送用設備を受注した影響等により同21.1%減となりましたが、環境システム事業は廃棄物処理施設における長期の維持管理運営業務を受託し、同56.2%増と大幅な伸びを示しました。

売上高については、建築設備事業が前期比5.6%の減収となり、機械システム事業は同11.1%減、環境システム事業は同2.5%減と、いずれも前期を下回りました。しかし今期（2018年3月期）への繰越工事高は大きく積み上げており、全体で同16.3%増の1,237億56百万円に拡大しました。

利益面については、減収が影響し各利益項目で減益となったものの、前々期との比較では大きく増加しており、引き続き高い利益水準を確保しました。特に売上総利益率は13.4%とさらに改善し、過去

10年で最高レベルになりました。

以上の結果、当期の連結業績は、受注高1,858億8千万円（前期比1.4%増）、売上高1,685億1千2百万円（同5.8%減）、営業利益60億1千2百万円（同7.6%減）、経常利益68億8千万円（同15.4%減）、親会社株主に帰属する当期純利益46億9千8百万円（同11.8%減）となりました。

**Q2** 中期経営計画の進捗状況についてお聞かせください。

**A** 「質を高める3年間」の取り組みを推進。保有不動産を活用する再開発計画にも着手しました。

当期から始動した3ヵ年中期経営計画“Century 2025” Phase1は、10年間の長期ビジョンの第1段階として、「質を高める3年間」をテーマに技術と人材を磨き、技術力を次世代に継承させながら、新たな技術開発を推進していくものです。「コア事業

の強化」「成長戦略の推進」「三機ブランドの向上」という3つの重点施策を掲げ、計画最終年度（2019年3月期）では「売上高1,950億円」「売上総利益240億円」「営業利益75億円」「経常利益80億円」を計画しています。

当期の取組成果としては、建築設備事業における調達本部の取扱量増加や現場支援メニューの拡大、設計支援センターの稼働を果たし、機械システム事業ではロボットと搬送設備を組み合わせたハイブリッド設備、環境システム事業ではDBO\*やバイオマス発電施設などの実績を挙げることができました。

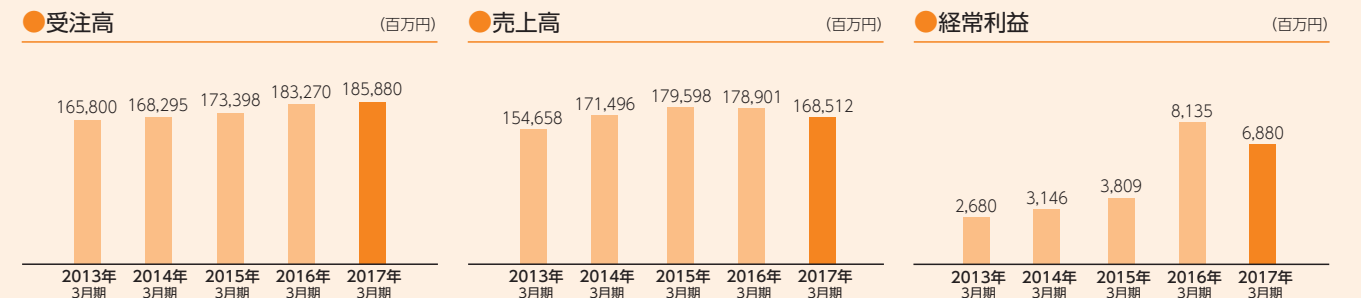
計画2年度目の今期（2018年3月期）は、以上のような取り組みを加速し、特に建築設備事業における内勤者の働き方を見直し、現場支援業務をより拡大することで「コア事業の強化」につなげてまいります。

※設計・建設と運営・維持管理を民間事業者に一括発注するもので公設民営の一つの方式

**Q1** 当期（2017年3月期）の営業状況と成果を総括願います。

**A** 売上高・利益ともに前期を下回るも、繰越工事高を積み上げ、利益も高水準を維持しています。

当期の国内建設市場は、前期に引き続き公共投資が減少傾向にありましたが、民間設備投資は緩やかな回復基調を辿りました。





また当社グループは、中期経営計画に基づき自社保有不動産を活用する再開発プロジェクトに着手しました。本件「STeP (Sanki Techno Park) 計画」は、神奈川県大和市に保有する三機大和ビル地区および大和事業所地区の土地・建物を主要対象とするもので、「Sanki Techno Centerの構築」「機械システム事業部門製造工場の再編」「保有資産の有効活用」による再開発を行います。

「Sanki Techno Center」は教育研修機能と次世代技術の研究開発機能を兼ね備えた施設として構築し、当社グループが目指す「技術と人の『質』の向上」を促進します。機械システム製造工場は、老朽化対応として建替えを実施し、これによる空きスペースを賃貸不動産として整備することで、保有資産の有効活用を図ります。

**Q3** 今期（2018年3月期）の見通しについてはいかがですか？

**A** 繰越工事高の増加を踏まえ増収増益を計画。課題対応を強化し、将来の成長に向け尽力いたします。

今期は、受注高については前期並みを想定していますが、前述のとおり繰越工事高が大きく積み上がっており、これを確実に施工実績につなげていくことで売上高増加を目指します。利益面では、引き続き徹底したコスト管理と現場サポート業務に取り組むことで、一層の利益水準向上を果たしていく考えです。

以上を踏まえ、今期の連結業績は、当初計画を見直し、受注高1,860億円（当期比0.1%増）、売上高1,800億円（同6.8%増）、営業利益70億円（同16.4%増）、経常利益75億円（同9.0%増）、親会社株主に帰属する当期純利益50億円（同6.4%増）

と、増収増益を見込んでいます。

今後を展望すると、建築設備事業では、施工能力とのバランスを考慮した受注戦略と確実な施工による利益確保、機械システム事業では、省力化ニーズを捉えた新技術による製品開発、環境システム事業では、保有技術を活かした新たな事業領域への展開が課題となってきます。これからの当社グループは、各課題への対応を強化し、将来の成長に向け尽力いたします。

**Q4** 株主の皆さまへのメッセージをお願いします。

**A** 高い利益水準を期末配当に反映し、期末普通配当10円に加え10円の特別配当を実施しました。

当期業績における利益は、前期から引き続き高い水準を維持していることから、今回の期末配当は1株当たり10円の普通配当に同10円の2年連続とな

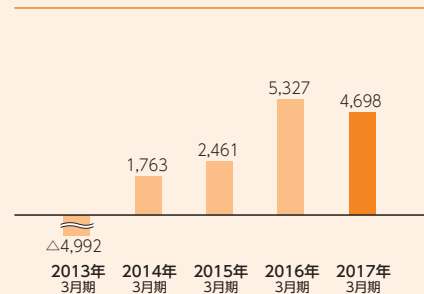
る特別配当を加え、同20円とさせていただきました。これにより年間配当額は、同10円の中間配当と合わせて同30円（前期同額）、連結配当性向は40.6%（前期は35.8%）となりました。

また、株主還元策として2017年5月22日には300万株の自己株式の消却を実施しており、4,000百万円を上限とした300万株の自己株式の取得を今年度中に予定しております。

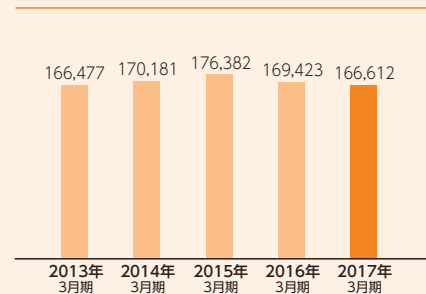
当社グループは、中期経営計画“Century 2025” Phase1 を着実に実行し、環境変化に柔軟に対応できる企業体制を構築していくことで、持続的な成長と企業価値の向上を実現してまいります。

株主の皆さまには、当社グループ事業の将来性にご期待いただき、今後とも長きにわたるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

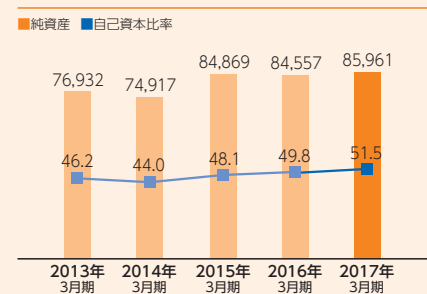
●親会社株主に帰属する当期純損益 (百万円)



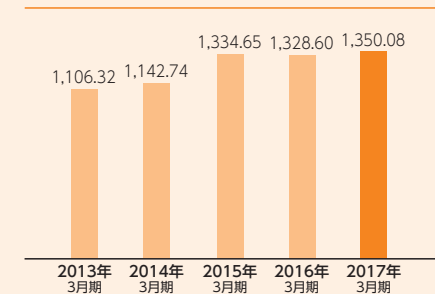
●総資産 (百万円)



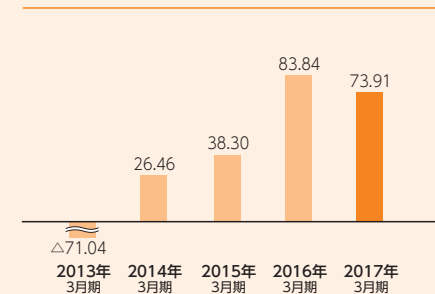
●純資産 (百万円) 自己資本比率 (%)



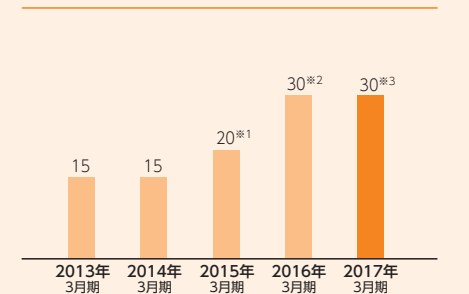
●1株当たり純資産額 (円)



●1株当たり当期純損益 (円)



●1株当たり配当額 (円)



\*1 創立90周年記念配当5円を含みます。  
\*2 特別配当12円を含みます。  
\*3 特別配当10円を含みます。

新ランドマークとして街づくりに貢献

## 複合商業施設「GINZA PLACE」

国内有数の繁華街であり、文化発信地として発展し続ける銀座。その新たなランドマークとなる複合商業施設「GINZA PLACE（銀座プレイス）」が2016年9月にオープンし、白い外観の美しさが銀座を訪れる人々の注目を集めています。本物件の開発において、当社は空調・衛生設備の施工を担当しました。

空調設備工事では、給排気口を外装パネルの下に隠し、薄型のベントキャップ（給排気口カバー）を特注するなど、外壁のデザインを損なわないように工夫を凝らしました。店舗と事務所の換気は給排気とも機械式で、



特に飲食店では、厨房使用状況に応じた排気ファン変風量制御を行っています。空調システムは、省エネルギー型ヒートポンプのパッケージエアコンを設置し、個別空調方式を採用しました。

給水は加圧給水方式で、ポンプの稼働ローテーションにより、故障発生時も給水を

◀GINZA PLACE外観

維持できるシステムを構築しました。排水は飲食店の入居に対応し、厨房排水と汚水・雑排水の2系統を設置しています。

今後も、事業主の皆様安心していただける信頼性の高い施工を行ってまいります。



▲地下2階にあるポンプ室。手前がスプリンクラーポンプ



施工担当者の声

VOICE



人通りが多い場所での作業であったため、第三者災害が発生しないよう安全性の確保を徹底して行いました。特に搬出入口での出入りには細心の注意を払うよう、毎日数回にわけて周知しました。また、搬入も1日1台だけで済むように段取りしました。今後も、妥協のない安全管理をさらに心がけてまいります。

東京支社 空調衛生技術1部  
筒井 僚

生産増強を支える空調・衛生機能

## 新規設備「池田模範堂第2工場」

虫さされ・かゆみ止めの外用剤「ムヒ」で知られる株式会社池田模範堂は、2016年10月、本社（富山県中新川郡）敷地内に第2工場を新設しました。当社は、全館の空調・衛生設備を施工しました。

空調設備では、2階の製造エリアと1階・3階の充填室にクラス10万レベルのクリーンルームを構築し、ステロイドを取り扱うエリアはハザード対応を行いました。各製造室に入るまでに幾つかの部屋を通る設計とし、給排気風量の調整により最陽圧となる清浄廊下から製造室に向けて空気を流すことで、工程間のクロスコンタミネーションを防止します。包装室は、中性能フィルターを通した給排気と陽圧構造により「可視塵埃なし」という条件をクリアしました。

衛生設備では、受水槽から加圧給水ポンプ方式で全館に給水し、製造ライン用に蒸気と水をミキシングして湯を作る汽水混合栓設備を導入。排水は、汚水・雑排水と生産排水に分け、排水管を設置しています。



▲第2工場外観

さらに、これらの空調・衛生設備のエネルギー効率や温湿度・室圧を細かく制御しながら一元管理する中央監視装置も構築しました。今後は、メンテナンスや補修等も当社が担当する予定です。



▲1階にある充填室のクリーンルーム



施工担当者の声

VOICE



施主様とは、15年近くのおつき合いがあります。その中での信頼関係により、今回は建築設備だけでなく、薬液や特殊ガスの配管などを行う、生産設備工事でも受注しました。生産設備と建築設備の管理が一元化できるため、施主様の負担軽減にもつながります。今後もこのような付加価値が高く、さらなる信頼へとつながる施工を心がけてまいります。

北陸支店 建築設備技術部  
田中 慶（左） 好田 哲（右）



BCP機能を支える電気設備を導入

## 大学新校舎「聖路加臨床学術センター」

聖路加国際大学の新校舎として、臨床・教育・研究を一体化した複合施設「聖路加臨床学術センター」が2016年3月に竣工しました。当社は、同センターの電気設備の施工を担当しました。

災害発生時に大学と病院のBCP（事業継続計画）拠点として機能すべく、同センターの電気設備には、安全性・保守性・経済性に配慮した信頼度の高いシステムが求められました。

特に電源については、停電や故障の発生に備え、電力供給会社からの受電を本線・予備線の2系統で確保し、さらに約3日間の電力供給が可能なガスタービン自家発電機を併せて導入しています。施工においては、受変電設備や幹線とともに、サーバ室に電気を送る無停電電源装置に対しても二重化を行い、電気設備の設置は、津波による浸水や振動への対策を徹底しました。

その他にも、省エネルギーに配慮した照明設計、放送

やセキュリティなど幅広い用途に対応する通信設備の施工により、施設の機能を充実させています。

当社は、お客様のあらゆるご要望にお応えするために、引き続き技術力の向上を図ってまいります。



▲無停電電源装置（UPS：Uninterruptible Power Supply）



▲聖路加臨床学術センター外観



### 施工担当者の声

### VOICE



現在ある聖路加国際大学・病院の建物に関しては、以前より電気の改修工事等の依頼を継続的にいただいております。今回の受注は、その実績による信頼から生まれたものと考えております。安全性に関する要望が高かったため、特に電源の二重化に関しては、詳細な資料を準備して、お客様の要望と齟齬がないか細かく確認してまいりました。これからもお客様の信頼に充分応えられるよう、当社に任せてよかったと言っていただける施工をめざしていきます。

東京支社 電気技術1部  
猪狩 孝尚

配管工事の施工省力化を実現

## アルミニウム冷媒配管の新工法

建設業界では、就業者数の減少と熟練労働者の高齢化が進み、より少ない労働力で施工品質の維持・向上を図る必要に迫られています。当社は、従来から開発を進めてきたアルミニウム冷媒配管工法に継手メーカーと共同で改良を加え、施工省力化約25%を実現する新工法を開発し、2017年3月に発表しました。

新工法では、継手本体とナット・インサートのプリセット化により、施工時の作業を簡易化するとともに、ナット内部に固体潤滑剤を塗布し、継手本体にナットを圧入する際の荷重を軽減しています。この新工法を検証した結果、従来工法と比較して施工時間を約25%短縮する効果が得られました。

品質面では、プリセット化によって継手部品の紛失や誤接続が防止できるため、施工の信頼性が一層高まるメリットをもたらします。また継手本体には、鋳鉄や真鍮に代えて、耐食性と強度に優れたアルミニウムを採用。軽量化効果とともに、アルミニウム配管と継手本体との異種金属接触がなくなったことで、品質・信頼性のさらなる向上を果たしました。気密試験および耐圧試験の基準もクリアし、銅配管と同等の能力を発揮できることを連続運転テストで確認しています。

当社は今後、全国のリニューアル工事を中心とする施工現場に新工法を順次導入してまいります。

### 既発表継手



鋳鉄・真鍮の5部品

### 今回発表継手



オールアルミ・プリセット化（一体化）

## 財務状況

(単位：百万円)

科目	前期末 (2016年3月31日現在)	当期末 (2017年3月31日現在)
流動資産	115,491	114,906
固定資産	53,931	51,705
資産合計	169,423	166,612
流動負債	72,863	68,776
固定負債	12,001	11,875
負債合計	84,865	80,651
純資産合計	84,557	85,961
負債純資産合計	169,423	166,612

### POINT

#### ●資産

資産は、前期末と比べ2,810百万円（1.7%）減少し、166,612百万円となりました。これは主に、売上債権の回収に伴う受取手形・完成工事未収入金等の減少によるものであります。

#### ●負債

負債は、前期末と比べ4,214百万円（5.0%）減少し、80,651百万円となりました。これは主に工事代金の支払いにより、支払手形・工事未払金等が減少したことによるものであります。

#### ●純資産

純資産は、前期末と比べ1,403百万円（1.7%）増加し、85,961百万円となりました。これは主に親会社株主に帰属する当期純利益4,698百万円を計上したことにより、利益剰余金が増加したことによるものであります。

## 経営成績

(単位：百万円)

科目	前期 (2015年4月1日から2016年3月31日まで)	当期 (2016年4月1日から2017年3月31日まで)
売上高	178,901	168,512
営業利益	6,509	6,012
経常利益	8,135	6,880
親会社株主に帰属する当期純利益	5,327	4,698

### POINT

#### ●売上高

売上高は、168,512百万円となり、前期に比べ10,389百万円（5.8%）の減収となりましたが、翌期への繰越受注高は、前期末に比べ17,367百万円（16.3%）増加し、123,756百万円となりました。

#### ●営業利益

営業利益は、原価管理の徹底や作業効率の向上等を通じて利益改善に努めたものの、減収の影響等により、6,012百万円と前期に比べ497百万円（7.6%）の減益となりました。なお、一昨年同期との比較では営業利益は3,061百万円（103.7%）の増益（一昨年同期の営業利益は2,951百万円）であり、前期から引き続き高い利益水準を維持しております。

## キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

科目	前期 (2015年4月1日から2016年3月31日まで)	当期 (2016年4月1日から2017年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,220	10,845
投資活動によるキャッシュ・フロー	5,520	△ 1,644
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,826	△ 2,458
現金及び現金同等物の期末残高	32,501	39,187

### POINT

#### ●営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、主に売上債権の回収が進んだことと、税金等調整前当期純利益7,004百万円を計上したことにより、10,845百万円の増加（前期は5,220百万円の増加）となりました。

#### ●投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、主に投資有価証券の取得により、1,644百万円の減少（前期は5,520百万円の増加）となりました。

#### ●財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、主に配当金の支払いにより、2,458百万円の減少（前期は1,826百万円の減少）となりました。

会社概要

会社名 三機工業株式会社  
 英文社名 SANKI ENGINEERING CO. LTD  
 創立 1925年4月22日  
 資本金 81億518万円 (2017年3月31日現在)  
 事業内容 建築設備事業、プラント設備事業、不動産事業  
 従業員数 連結 2,339名 個別 1,933名  
 (2017年3月31日現在)

事業所一覧 (2017年6月27日現在)

支社 3ヶ所  
 支店 15ヶ所  
 研究所 1ヶ所

連結子会社 (2017年6月27日現在)

三機テクノサポート株式会社  
 三機産業設備株式会社  
 三機化工建設株式会社  
 三機環境サービス株式会社  
 三機パートナーズ株式会社(2017年4月1日 社名変更)  
 アクアコンサルト社(オーストリア)  
 タイ三機エンジニアリング&  
 コンストラクション社(タイ)



役員

(2017年6月27日現在)

○取締役および監査役  
 取締役 梶浦 卓一  
 代表取締役 長谷川 勉  
 取締役 玖村 信夫  
 取締役 藤井 日出海  
 取締役 三石 栄司  
 取締役 本松 卓  
 取締役 石田 博一  
 取締役 山本 幸央  
 取締役 西尾 弘樹  
 取締役 額賀 信  
 取締役 古村 昌人  
 取締役 福井 博俊  
 取締役 井口 武雄  
 取締役 則定 衛

○執行役員  
 社長執行役員 長谷川 勉  
 副社長執行役員 玖村 信夫  
 専務執行役員 藤井 日出海  
 常務執行役員 三石 栄司  
 常務執行役員 齊藤 一男  
 常務執行役員 白木 博之  
 常務執行役員 本松 卓  
 常務執行役員 杉浦 繁  
 常務執行役員 國廣 正年  
 常務執行役員 井上 忠昭  
 常務執行役員 石田 博一  
 常務執行役員 廣瀬 幹男  
 常務執行役員 朝倉 和昭  
 常務執行役員 福田 順一  
 常務執行役員 工藤 正之  
 常務執行役員 岡元 正治  
 常務執行役員 名取 秀雄  
 常務執行役員 宮崎 和夫  
 常務執行役員 富田 弘明  
 常務執行役員 矢野 憲一  
 常務執行役員 川辺 善生  
 常務執行役員 泉 和男  
 常務執行役員 穴口 常明  
 常務執行役員 苅部 郁生  
 常務執行役員 飯嶋 和明  
 常務執行役員 太田 伸祐  
 常務執行役員 苑田 敬治郎  
 常務執行役員 山中 庸詳  
 常務執行役員 松本 昌彦  
 常務執行役員 門脇 公夫  
 常務執行役員 鹿田 晃彦  
 常務執行役員 成瀬 安計  
 常務執行役員 勝野 耕治  
 常務執行役員 本川 忠行

執行役員

株式の状況

(2017年3月31日現在)

発行可能株式総数 192,945,000株  
 発行済株式総数 66,661,156株  
 株主数 3,157名

大株主

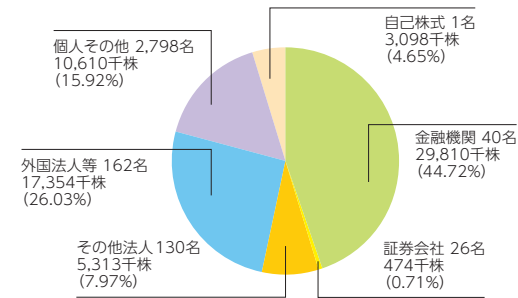
(2017年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
三井生命保険株式会社	6,300	9.91
明治安田生命保険相互会社	5,700	8.97
日本生命保険相互会社	4,672	7.35
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,820	4.44
三機共栄会	2,634	4.14
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,057	3.24
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505223	1,716	2.70
ジェービー モルガン チェース バンク 380684	1,501	2.36
デイエフエイ インターナショナル スモール キャップ パリユー ポートフォリオ	1,296	2.04
三機工業従業員持株会	1,145	1.80

(注1) 当社は自己株式3,098千株を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。  
 また、持株比率は自己株式を除いて計算しております。  
 (注2) 当社として、当事業年度末における実質所有株式数の確認が可能な株主を対象に記載  
 しております。

所有者別株式分布状況

(2017年3月31日現在)



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
 定時株主総会 毎年6月下旬  
 株主確定基準日 (1) 定時株主総会 3月31日  
 (2) 期末配当金 3月31日  
 (3) 中間配当金 9月30日  
 その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日  
 を定めております。

公告掲載方法 電子公告の方法により行います。ただし、やむを得  
 ない事由により電子公告をすることができない場合  
 は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載い  
 たします。  
 (当社ホームページ <http://www.sanki.co.jp/>に  
 掲載します。)

単元株式数 100株  
 株主名簿管理人および  
 特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
 三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
 (電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)  
 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および  
 全国各支店(コンサルティングオフィス・コンサルプ  
 ラザを除く)で行っております。

**住所変更、単元未満株式の買取・買増等の  
お申し出先について**

株主さまの口座のある証券会社にお申し出ください。  
 なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました  
 株主さまは、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀  
 行株式会社にお申し出ください。